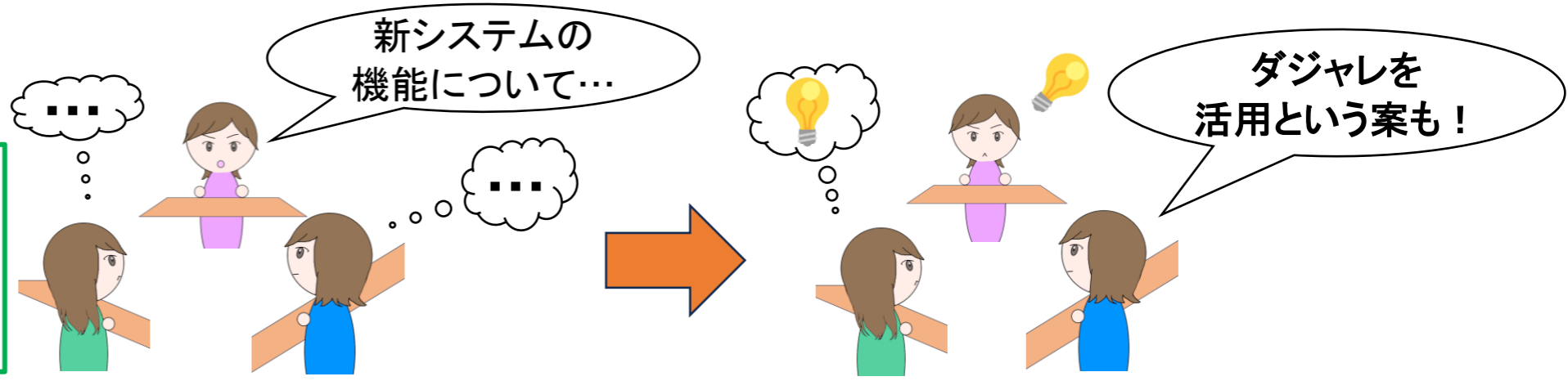


遠隔議論におけるAI搭載型ダジャレエージェントの開発

瀬田・林研究室 1211100007 池嶋佑哉

研究背景

- 議論の過熱時における、一つの観点への固執、視野の狭小化
- 意見の衝突
- 意見が出ないことによる議論の膠着



場の様子・雰囲気の変化すれば、より有意義な議論やコミットメントを引き出すのではないかな？

研究目的

遠隔議論において参加者に心の余裕を与え、場の雰囲気を和ませるシステムの開発

アプローチ

ユーモア、特にダジャレなどの遊戯的ユーモアにおける気分や雰囲気を明るくする気分転換の作用[1]に着目。

従来

強調学習支援システム
開発プラットフォーム[2]



データベース利用型
ダジャレ生成ツール[3]

今回

強調学習支援システム
開発プラットフォーム[2]



AI搭載型ダジャレ生成・
音声出力ツール

[1]上野行良, “ユーモア現象に関する諸研究とユーモアの分類化について”, 社会心理学研究, 第7巻第2号, pp. 112-120, 1992.

[2] 杉本葵, 林佑樹, 瀬田和久, “言語・非言語アウェアなCSCL システム開発プラットフォーム”, 電子情報通信学会論文誌(D), Vol. J101-D, No.4, pp. 713-724, 2018.

[3] 根来尚希, “ダジャレエージェントの開発と協調学習への導入”, 大阪府立大学卒業研究, 2017.

システム

開発言語: C#, Java, MySQL

- 強調学習支援システム開発プラットフォーム[2]上で利用可能
- ダジャレ発声機能を搭載した学習支援ツールとして実装

起動時

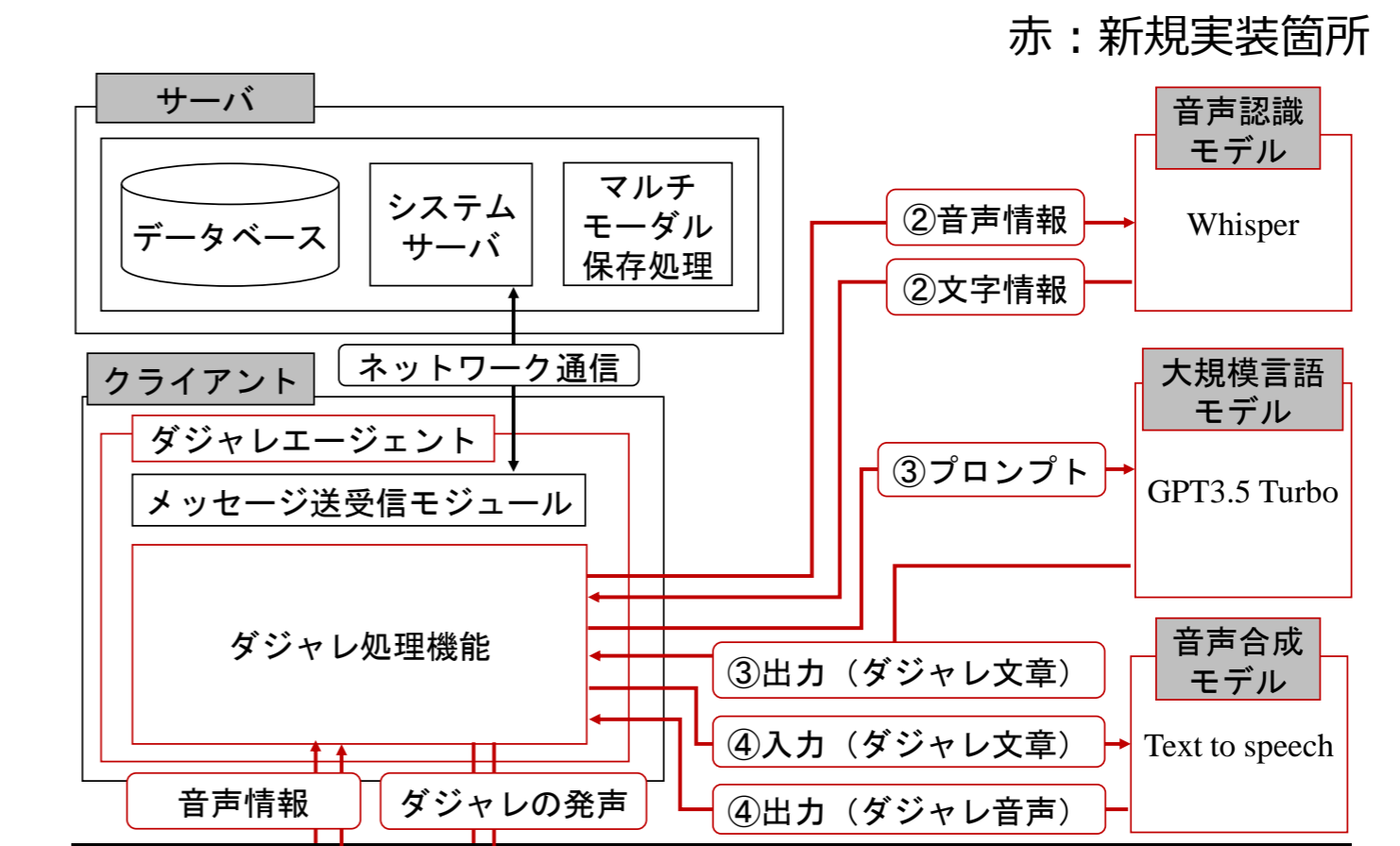
フューショット学習: 10個のダジャレ文, 及び国際音声記号のプロンプト入力

ダジャレ生成から出力までの過程

- ①会議における発言の開始と終了を解析
- ②その間に取得された音声情報を, 音声認識モデル (Whisper) により文字情報化
- ③その文字情報をプロンプトにして大規模言語モデルへ入力
- ④その出力結を音声合成モデル (Text to speech) により音声出力

ダジャレ生成・出力について

- 認識された1まとまりの文章に対するダジャレの生成が1秒未満で可能
- 音声の出力は同期処理で行われるため, 生成されたダジャレの一部のみが出力



システムの構成図及び動作例

今後の課題

- システムの評価実験による, 有効性の確認
- システムの介入タイミングを決める計測指標の検討
- ダジャレの生成がなぜ難しいのかについての考察